

令和 7 年度 練馬区立南が丘中学校 学校評価報告書

練馬区立南が丘中学校
校長 宮田 健史

1 自己評価結果

(1) 確かな学力の定着・体力の向上につながる授業の実践

- ① 教職員全員で「めあて」を提示し、その時間に生徒が何を学ぶかを明確にしてきた。学校評価では生徒から 87.5%の肯定的な回答を受けた。保護者からも、81.2%の肯定的な回答を受けた。「めあて」を通して毎時間「振り返り」を行い、より良い学習内容の定着を図る。
- ② 学校評価アンケートでは、「一人一人の生徒を大切にしたい、個に応じた学習がされている」に、生徒の肯定的な意見が 88.3%と昨年度に比べて約 7%以上、上がった。数学・英語での習熟度別少人数授業の成果だと考える。さらに定期考査前の学習教室と明けテストなどの成果だと考える。明けテストと学習教室に関しては、生徒の肯定的な意見は 90.7%、保護者の肯定的な意見は 87.1%と昨年度に比べて約 8%以上、上がった。長期休業中の家庭学習のあり方を検討し、学習習慣を身に付け、生徒が学習に向かう力を育むようにした成果だと考える。今後も少人数授業等の取組を続けていくとともに、効果的な学習の方法の収集と検討を重ね、保護者と共通理解を深め、自分で学習する力の定着を図る。
- ③ 「話し合い活動・発表活動・読書等の言語活動を重視した授業が進められている」に、生徒の肯定的な意見が 94.0%と昨年度に比べて約 5%以上、上がった。保護者の肯定的な意見 85.9%であった。校内研究で取り組んだ発表活動等で自信がついてきた証と考える。英語科と国語科のスピーチ学習等、考える力を高める取組を行った結果と考える。
- ④ 体育の授業では毎時間、サーキットトレーニングを行っている。これにより運動量が確保されているため、生徒・保護者からこの項目について高い支持を得ている。次年度も続けていく。

(2) 規範意識の高い、心豊かな生徒の育成

- ① 年間 3 回のふれあいアンケートや長期休業明けのアンケート、トーキングタイム等を行い、早期発見早期解決を次年度も心掛けて取り組む。
- ② 生徒の困り感を素早くつかめるように教員全員で対応した。また、問題発生や課題を見つけた際は、学年、学校がチームとなり迅速に対応し、保護者への丁寧な説明なども行った。
- ③ 学校の生活指導の取組としての「あじみこし」が定着している。特に「あいさつ」は保護者や来校者からも高い評価を得ている。次年度はさらに「失敗から学ぶ」を「し」に含め、主体的に行動する意欲に結び付けたい。
- ④ 4 月に情報モラル講習会を実施した。生徒の評価が、昨年度に比べて約 8%以上、上がった。SNS トラブルの未然防止はとて取組がいのある課題だが、生徒と保護者にふさわしい使用方法等について情報提供し、学校と家庭の共通認識を図って取り組んでいく。

(3)夢や希望を育む進路指導

- ①本年度も第2学年で職場体験を実施することができた。また、5月に3年生対象に区内で活躍している方を講師として、「職業人の話を聞く会」を行った。生徒は社会で活躍する姿や活動する意義を学ぶことができた。次年度も実施したい。
- ②学校では生徒の自律を目指し、3年間を見通したキャリア教育の実施に取り組んでいる。学校評価アンケート No16、No17 では生徒の評価は90%以上、保護者の評価は80%以上であった。2年間の練馬区教育課題研究指定校としての取組が評価されたと捉えている。次年度も、これまでの取組が着実に実施できるように全体計画・年間計画を見直していく。

(4)主体的に関わる学校行事、諸活動の実施

- ①運動会や移動教室、合唱コンクール等の各行事では生徒が中心となって運営できた。そのため学校評価アンケート No18 では生徒・保護者共評価は94%以上であった。生徒たちが意欲的に取り組めるよう、教員が細やかに指導している賜物である。これを本校の伝統として継続していきたい。
- ②生徒会朝礼を通し、毎月の各種委員会の活動を発信している。No19 では生徒の評価は96%であった。生徒会・委員会活動などの主体的活動を促す働き掛けが行われている。
- ③スポーツ庁や文化庁のガイドラインを遵守し、部活動を適切に運営している。都や区の今後の動向が不明瞭であるため、中期的な方向性を示せないことは課題である。また学校規模が小さいため顧問の確保が難しい。部活動運営は教員の働き方改革を進めながら、生徒の活動を中心として保護者・地域とともに考えていきたい。

(5)特別支援教育・小中一貫教育の推進

- ①隔週で適応推進委員会を行っている。巡回臨床心理士やMSURの教員と連携を取りながら、特別な支援を必要とする生徒への対応を検討・実施することができた。
- ②特別支援学級とのポッチャ、モルックの交流活動を行った。運動会などの行事では、特別支援学級と通常級との直接交流を通し生徒同士の関係を深めることができた。No21では生徒の評価は91%で昨年度と比較して7%以上向上した。特別委員会や生徒会活動等の直接交流を来年度も継続していく。
- ③小中連携に関する項目では生徒の評価は87.9%と昨年度と比較して5%以上向上した。小学生の中学校体験、中学1年生によるリトルティーチャー、小中合同の挨拶運動を行った。今年度は中学校体験の前に小学生からのアンケートをとり、それに生徒会が答える取組を実施したことが高評価につながったと考える。来年度も継続する。

(6)安全・健康への配慮

- ①生徒の災害時の素早い判断力と行動力を向上させるため、毎月の避難訓練・安全指導では課題を提示して実施することで、生徒に避難に際しての判断力、行動力を養えていると考えている。No23では生徒の評価が約7%向上し、訓練に真剣に向き合った成果と考える。
- ②学校評価アンケート No25では生徒の評価は96%で昨年度と比較して6%以上向上した。栄養教諭が中心となり、栄養・衛生管理を適切に行うだけでなく、栄養教諭からの毎食の給食カードや巡回指導の成果の賜物である。

(7)地域に開かれた学校づくり

- ①今年度は運動会も文化発表会も平日開催となったが、多くの保護者にご来校いただきました。運営面でも PTA の協力により実施できた。来年度も保護者や地域が学校行事や学校公開に参加しやすいよう、PTA 等と協力していく。
- ②電話や来客への教職員の対応について、No27 では保護者評価は 87%と昨年度より数値が下がった。今後丁寧な対応を進めるよう全教職員で取り組んでいく。
- ③学校だよりやホームページを活用し、積極的に情報発信を行うことができた。
- ④Sigfy を活用した通知の配布、Google forms を活用したアンケート等など、I C Tを活用し保護者の負担感や紙の使用量を減少させた。利便性はあるが、学校評価など保護者の回答率は減少している。

2 根拠となる資料

令和 7 年 11 月実施「学校評価アンケート」の肯定的な意見
(4 段階中「そう思う」「やや思う」の割合)。

NO.	質問	生徒 90.5%	保護者 62.0%	教職員 100%	評議員 75.0%
1	生徒は学校に行くことが楽しいと感じている。	87.5%	85.3%	95.5%	100%
2	生徒は安心して学校に通うことができている。	95.6%	91.2%	100%	100%
3	授業は 1 時間の「めあて」が明確になっている。	87.5%	81.2%	100%	83.3%
4	一人一人の生徒を大切にしたい、個に応じた学習指導(はたらきかけ)がされている。	88.3%	74.1%	100%	83.3%
5	話し合い活動・発表活動・読書活動など言語活動を重視した授業が進められている。	94.0%	85.9%	95.5%	100%
6	生徒用タブレットなど I C T 機器を活用した授業が進められている。	92.3%	87.1%	90.9%	100%
7	明けテストや学習教室を行い、家庭学習の習慣が進むような取組をしている。	90.7%	88.2%	100%	100%
8	習熟度別少人数学習により、意欲や学力を高める取組が進められている。	89.5%	84.1%	100%	100%
9	保健体育科の授業を中心に、十分な運動量を確保する取組が進められている。	95.2%	85.3%	100%	83.3%
10	生徒の学力、能力、努力を適切に評価している。	89.9%	81.2%	100%	100%
11	生徒一人一人が大切にされ、生徒の気持ちに寄り添った対応が行われている。	87.9%	75.3%	100%	100%

12	生徒が学校生活の決まりを守れるよう適切に指導している。	94.0%	88.8%	100%	100%
13	生徒は「あじみこし」（あ：挨拶、じ：時間、み：身だしなみ、こ：言葉遣い、し：姿勢）の大切さを理解できるような指導（はたらきかけ）が行われている。	89.1%	92.4%	100%	100%
14	いじめ未然防止のための生活指導・教育相談・環境整備に努めている。	89.1%	85.9%	100%	83.3%
15	家庭と協力し、インターネット・SNSトラブルの未然防止に努めている。	92.7%	78.8%	86.4%	86.4%
16	将来の生き方を考えさせたり、体験させたりする適切な進路指導が行われている。	90.7%	80.6%	100%	100%
17	三者面談・キャリアパスポート・進路希望調査などを通じて家庭と連携し、適切な進路指導が行われている。	92.7%	82.9%	100%	100%
18	運動会や文化発表会などの学校行事では、生徒が中心となって活動している。	94.0%	94.1%	100%	100%
19	生徒会・委員会活動などの生徒の主体的活動を促す指導（はたらきかけ）が行われている。	96.0%	88.2%	100%	100%
20	部活動の指導は適切に運営がされている。	86.3%	79.4%	100%	83.3%
21	特別支援教育に力を入れ、生徒同士の交流や共同学習を進めている。	91.1%	* 79.4%	90.9%	100%
22	授業体験や行事を通して南が丘小・南田中小と連携する活動を進めている。	87.9%	85.9%	100%	100%
23	セーフティ教室、避難訓練、などの安全指導の充実に取り組んでいる。	94.8%	90.6%	100[%	83.3%
24	掃除が行き届き、施設・設備を含めてよりよい環境の整備に取り組んでいる。	94.0%	94.1%	95.5%	100%
25	給食の献立は工夫され、栄養のバランスが良く、安全である。	96.4%	90.6%	100%	100%
26	保護者や地域の方々は学校行事や授業公開に参加しやすい。	84.7%	90.0%	100%	100%
27	電話をしたり学校を訪問したりした際の教職員の対応は親切で好感がもてる。	—	87.6%	100%	100%
28	学校は保護者・地域に対して、学校の教育内容等を学校だよりやホームページ等で積極的に発信している。	—	88.8%	95.5%	100%

29	学校は保護者・地域と連携しながら学校を運営しようとしている。	—	87.6%	95.5%	100%
30	言語活動を重視した授業により、考える力や表現する力が高まった。	91.5%	—	—	—
31	ICT危機を活用した授業を通じて、授業に取り組む意欲が高まった。	88.3%	—	—	—
32	少人数習熟度別の取組により、学習への理解が深まった。	86.7%	—	—	—

※ 令和7年11月4日～11月17日実施の「学校評価アンケート」の肯定的な意見（4段階中「そう思う」「ややそう思う」の割合）

3 学校関係者評価

「学校評議員会」（令和8年2月17日実施）での協議内容

(1)成果

- ① 不登校生徒数が減少している。
- ② 学校評価のアンケート結果が、昨年度と比較して全般的に向上したのは、教職員の方の成果として評価する。
- ③ 生徒たちが明るい表情で登校している。
- ④ 主体性のある明るい学校生活が、アンケートの集計結果より感じられる。ホームページの更新が頻繁に行われ、学校生活の様子が伺われる。
- ⑤ 給食に対しての生徒の高評価が大変うれしい。

(2)課題

- ① 学校評価アンケートで、保護者の回答率（62.0%）が低い。SNSやスマホのトラブル防止に関する家庭内での保護者の問題意識が課題と考える。
- ② 国、都、区レベルの問題かもしれないが、部活動についての課題が挙げられる。部活動の地域移行も含めて運営については、不明瞭な点が多い。
- ③ 保護者の満足度の低い個々への対応について、何を求められているのかを確認したい。

(3)改善策

- ① SNSトラブル防止については、情報モラル講習会などに生徒だけでなく、保護者も積極的に参加していただき、共通認識をもっていただけるようにする。
- ② 部活動については区の動向をもって、徐々に変革していく。
- ③ 学校の教育活動に対して保護者に興味・関心をもってもらうようにする。文化発表会、ダンス発表会、プレゼンテーション活動など、学校公開日と重ねることで、保護者に我が子の様子に興味をもたせ、学校に足が向くようにしていきたい。

4 評価結果の公表等

(1)令和8年3月に以下の方法で公表する。

- ①学校ホームページでの公表

- ②学校だよりでの公表
- ③保護者会での説明

5 次年度の学校改善に向けた校長の見解

【中期目標との関連】

(1) 確かな学力の定着・体力の向上につながる授業の実践

①授業改善と当事者意識の育成

教員ごとの授業アンケートを継続し、教員の授業改善に向けたツールとするとともに、生徒に「どうすれば授業をより良くできるか」を問い続けることで、学びへの主体性を育んでいく。今年度、練馬区教育課題研究指定校として言語活動を重視した教育活動に取り組み、生徒の肯定的な評価が94.0%に達した成果を踏まえ、さらに「表現する力」を高め定着させる授業実践を推進していく。

②学習習慣の定着と環境整備

「明けテスト」や「学習教室」が家庭学習習慣の向上に寄与している(生徒肯定率 90.7%) 成果を維持するため、今後も内容の検討を重ねながら、生徒の学習意欲を維持する工夫を継続する。

③個に応じた指導の充実

「ほっとすルーム」の定着や不登校生徒巡回教員の配置等により、不登校生徒の減少や教員の働きかけの工夫を維持していく。さらに、支援が必要な生徒にとどまらず、「ふれあい月間」や長期休業明けのアンケートなどを通して、生徒個々のニーズに合わせた支援を継続する。

(2) 規範意識の高い、心豊かな生徒の育成

①「自律」を重んじた生活指導の充実

「あじみこし」の取組を深化させることで、生徒の学校への帰属意識を高めていく。特に「し(姿勢)」については、「失敗から学ぶ」大切さを伝え続けることで、新たな挑戦や過去に失敗した活動にも挑む姿勢を育成し、生徒の自己肯定感や柔軟性を高めていきたい。

②情報モラルと家庭との共通認識

SNSトラブルの未然防止に向け、生徒への啓発だけでなく、PTAとも連携しながら保護者の危機意識向上を図る。情報モラル講習会等への保護者の参加を促し、学校と家庭が一体となった指導体制を強化していく。

(3) 夢や将来の在り方を育むキャリア教育の実践

①キャリア教育の質的向上

練馬区教育課題研究指定校としての2年間の成果を土台に、3年間を見通した体系的なカリキュラムをより良いものへと再構築していく。

②バックキャスト的な視点での指導の進化

単なる体験活動に留まらず、生徒が「理想とする自分像」を深め、その姿から逆算して「今できる活動」を考える「バックキャストの視点」を実践できるよう、教員の意識改革と教育課程の精選を進め

ていく。

(4) 地域に開かれた学校づくり

① 保護者の関心と参画の促進

保護者のアンケート回答率(62.0%)の向上は、喫緊の課題である。回答率低下の背景には、教育活動への安心感から「学校に任せられる」と考える保護者が増えたという側面も推測されるが、正確な判断は難しい。生徒の表現活動(ダンス発表会、プレゼンテーション等)を学校公開日と積極的に重ねることで、保護者が「我が子の輝く姿」を目にする機会を増やし、学校への関心を一層高めていく。

② コミュニティ・スクールへの移行検討の推進

区の施策を踏まえ、学校評議員会を中心として、次年度以降のコミュニティ・スクールへの移行を検討していく。移行に際しては、保護者・地域の意見に十分耳を傾けながら、本校の在るべき姿についての検討を進める。

③ 透明性の高い情報発信

今年度もホームページを頻繁に更新(年間300回以上)でき、Sigfyの活用も図ってきた。次年度もこれらのツールを活用し、日頃の教育活動を積極的に発信する。また、保護者評価が低下した教職員の対応(87%)については真摯に受け止め、全校体制で電話対応や接遇を見直し、丁寧な対応を徹底していく。

【まとめ】

令和7年度の教育活動は、アンケート結果が全般的に向上し、生徒が明るい表情で登校するなど、一定の成果を収めることができた。これは教職員が組織的に機能したこと、また練馬区教育課題研究校として「表現活動」の評価にルーブリックやフィードバックを多く取り入れ、生徒自らが課題を把握できる取組を推進した結果と受け止めている。次年度は、今年度の成果を踏まえ、さらなる改善と充実を図っていく。

次年度も校長自ら教職員の先頭に立ち、「学ぶ意欲にあふれ、自律した社会人への基礎を築ける学校」の実現に向け、生徒一人一人の「在り方生き方」を支える教育を推進していく。